校長室通信

平成２５年度
第 ２０ 号
下野市立南河内第二中学校
発行者　横　島　　清

Ｈ２６．２．７

２月、如月となりました。３日節分、４日立春を迎え、暦の上では春となりました。各地から、春の花の開花のたよりが寄せられています。栃木県でも、所によってはザゼンソウやセツブンソウが開花したとのことです。しかし、まだまだ寒い日が続きますので、カゼ、インフルエンザ予防と併せて健康管理に注意していきましょう。

１　２年生立志式実施

〔立志式式辞から〕

『初心忘るべからず』
能を大成した世阿弥のことばを贈りました。

①一般的には
最初に思ったり、誓ったりしたこと、初めての志を忘れないということです。

②調べてみると
人生の試練の時に、どうやってその試練を乗り越えてきたということを忘れないこととありました。

③私が考えた初心
自分で考え、いろいろな事に挑戦して、初めてできた喜びを忘れないで自信として生活することだと思いました。

《人生の先輩として伝えたこと》

①健康であること
丈夫な体と健全な心は、物事をやり遂げる基本ですから、最も大切なことです。

②生きがいを持つこと
このような人になりたい、このような人生を送りたい、このような職業で活躍したいという、高い理想や夢を持って努力することが、飛躍につながります。

③良き友を得ること
分かち合う友がいれば、喜びは何倍にもなり、悲しみは半減します。中学時代の友は、一生涯の友となります。

２　立春の雪

４日は立春でしたが、関東地方は大雪となりました。寒が明けたのですが、気温は低く生活するのが大変です。如月の語源の一つとして、寒さを防ぐため着ているうえにさら着ることから来ているという説もあるくらいです。２月は、植物が地中で躍動し始める希望の月ですが、まだまだ気温の低い寒さ納めの月でもあります。関東地方では、この季節関東南岸を頻繁に低気圧が通過するようになります。その事によって、定期的に雨が降り気温によっては雪になるのです。また、その低気圧の発達状況によっては、北西の冷たい風が吹き、農地の土を巻き上げ砂埃が舞うことがあります。そうして、３月を迎え三寒四温となり春を迎えることとなります。

３　カゼ・インフルエンザ対策

ここ数日、２年生を中心にインフルエンザが流行の兆しを見せています。２年生は、先週の立志記念スキー学習による、集団生活の影響が大きいように思います。１、３年生に於いても、体調の悪い生徒がおりますので、健康管理について十分の注意をしてください。

体調が優れないときは、早めの対処が肝心です。大事をとって休んだり、病院等を受診したりして体調体力の回復に当たってください。

普段の生活では、手洗い、うがい、マスクの着用をしっかり実践しましょう。当たり前にきちんとできるように習慣化することが大切です。

３　先生方の俳句　～冬バージョン～

立志式 祝う磐梯 銀世界　　横島清

カーテンの 裾から動く 毛糸玉　　日下田英彦

スノーシュー小田代漫歩ぽっかぽっか 秋山千恵子

澄む地平 ペン先ほどの 江戸紫　　吉高神摂

闇に立ち 寒犬何に 吠え叫ぶ　　高橋祐一

ゴンドラに 負けじと走る 山うさぎ　　宇都木怜子

腕まくり 湯気の向こうに 友の顔　　向縄勝代

溌剌と 赤い手袋 白い朝　　塚原英子

寄せ鍋は 家族がそろう 日に限る　　大嶋光子

新年の 誓いを立てて まだ１０日　　須藤弘

新年や 母の雑煮に 泪目に　　岡田親亮

凜として 白き磐梯 そびえ立つ　　別井渉

今年こそ 決意は固い 初詣　　設樂孝男

風冴ゆる 磐梯の白 広がりぬ　　佐藤明美

スキーにてレストハウスが好きになり　倉井孝明

着ぶくれか それとも現実 闇の中　　秋山実

三年経つ 東北想い 初日の出　　星野友保

氷柱ふむ 足跡続く 通学路　　稲見雄太

通勤時 背中で応援 白い富士　　関　恵

磐梯山 見守る先は 生徒かな　　堀美弥

冬うらら 窓に背をつけ ソーラーさ　　平塚克幸

換気にて 我先にとぞ 来る寒気　　坂本匡

ボール蹴る 希望に満ちた 冬夕焼け　　清水友晶

冬夕焼け 景色に映える 富士の山　　伊東百代

冬の原 怪我した足が 前に出ず　　齊籐聖雄

冬銀河 願いよ届け 初流星　　長谷川諭

冬の朝 睡魔と戦い 勝利する　　萩原晴香

雪斜面 撮れたはいいが 手ブレかな　　工藤由樹

着ぶくれと 信じたいけど そうじゃない　山本千帆

要注意 今年ももちの 食べ過ぎに　　中山智史

結晶で 広がるキャンバス まっ白に　　伊佐真梨子

サッカーの 授業の後は 服の山　　小貫あさみ

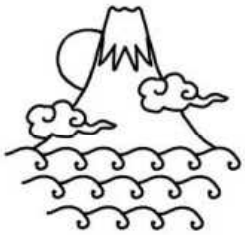
餅腹で 息をつきつつ 初筑波　　川俣達夫

身も縮み 時をも止める 冬将軍　　佐藤洋子

寒犬の 震える背中 抱きしめて　　五月女千恵子

ホットミルク からだ温もり 安眠か　　後藤久恵

初蹴りや ナイスシュートで 笑顔咲く　　渡邊庸子



【 精進６ 感性的な悩みをしない 】

人生では誰でも失敗をしますし、間違いを起こします。しかし、そうした過失を繰り返しながら人は成長していくのですから、失敗をしても悔やみ続ける必要はありません。

「覆水盆に返らず」という言葉がありますように、一度こぼれた水は元に戻りません。起こってしまったことを、いつまでも思い悩んでいても何の役にも立ちません。それどころか心の病のもとになり、人生を不幸なものにしてしまいます。

自分のどこが悪かったのかは反省しなければなりませんが、十分に反省した後は、くよくよせずに新しい道を歩み始めることが大切です。

済んだことに対して、いつまでも悩み、辛労を重ねるのではなく、理性で考え、新たな行動に移るべきです。そうすることが素晴らしい人生を切り開いていくのです。

６つの精進の掲載は、今回で終了します。